

安来高新聞



発行所：安来高校新聞部
〒692-0031
島根県安来市佐久保町115
TEL：(0854)22-2840
FAX：(0854)22-3612



青空の下笑顔で走る安高生

秋晴れの空のもと 校内ロードレースを駆け抜ける

10月25日に校内ロードレース大会が行われた。男子17km、女子12kmという長距離を完走を目指して全校生徒が懸命に走った。

肌寒く少し曇った空模様の中始まった今回の校内ロードレースだったが、どの生徒も完走するためゴールの安来高校を目指してそれぞれ一生懸命走った。女子で

は濱崎由唯さん(3年)が去年に引き続き1位でゴールし、2連覇を果たした。濱崎さんは「1位でゴールできてうれしい。1、2年生に負けないように完走を目指して走った」と笑顔で話した。男子1位の永田晃弘さん(3年)は「めっちゃうれしい。去年は2位だったので、今年は1位を目指して陸上部を引退してから走ったり、ロードレースのコースを2日前に走ったりした」とロードレースにかけた思いを語った。また、このロードレースで教員と

しても、一母親としても炊き出しの豚汁作りに参加した秋月先生は「23人の親御さんらに協力してもらいとても手際よく作る事ができた。材料の大きさを揃えるなど食べやすくなるように、生徒のことをとても考えて作っておられ、お父さん方には大なべを運んでもらうなどとても助かった」と話した。500g、600gの豚肉を作るために豚肉30キロ、豆腐50丁を使い、サツマイモは松江養護学校分教室さんのものが使われた。(友)

上位入賞者(学年 部活動)

女子

男子

10位	9位	8位	7位	6位	5位	4位	3位	2位	1位	女子	男子
米村嘉織(1年バレー部)	川隅莉子(3年バレー部)	今井絹(2年バスケット部)	小原未久(2年フェンシング部)	澁谷未菜(3年バレー部)	宮本季代(1年バスケット部)	山本萌映(3年バレー部)	宮本愛海(3年バレー部)	喜佐田紗有里(1年バレー部)	濱崎由唯(3年バレー部)	飯橋祐太(2年野球部)	永田晃弘(3年陸上部)
吾郷翔哉(3年バレー部)	上田隆斗(1年野球部)	山根昶士(2年バスケット部)	小村晃大(1年野球部)	渡部魁人(2年野球部)	仲佐蒼太(1年バレー部)	野口耕平(2年ソフトボール部)	前嶋裕佑(3年陸上部)				

佐久保発 生徒会長の決意

私たちは、日常の中で色々なことの決断をしている。例えば、明日は6時に起きようとか今日はテレビを見る前に勉強しようとか。そんな日常のたくさん決断の中で今回、私は生徒会長になるという決断をした。この決断は私にとって大きな決断で今まで経験をしたことがなかった。だから、はじめは不安だったけれど、一度決めたことは途中で諦めたくないという思いがあったのと同時に、周りに応援してくれる友達、アドバイスをくれた先生、先輩がいたから決断することができた。この経験を機に、今の自分の意志で決断することが大事だと感じた。時には誤った決断をしてしまったり、未来の自分にプラスにならない決断をしてしまったりするかもしれない。また、その決断をしたことに対して後々後悔してしまうことがあるかもしれない。でも自分がこうだ!と思ったのならその決断を信じてそれを貫き通すことのほうが大事だと思う。もしも、その決断が結果的に誤った決断だったとしても、それも一つの経験で、糧になるから、自分の意志で決断していきたい。(葉)

演劇部

祝 県大会進出 魅せた伝えたい想い

9月22日～23日にかけて島根県の高等学校の松江地区演劇発表会が県民会館で行われた。本校の演劇部は出場した8校中、県大会に進める5校に選ばれ、優秀賞に輝いた。



迫真の演技をする演劇部部員

部長の遠藤未央さん（2年）は「県大会出場できるとは思っていませんでした。緊張はあまりしなかった。嬉しかった。また、今回の演目「ひながかえる」は生徒創作による脚本で遠藤さんが作成した。進路に悩む高校生が、友人の真似をして進路を安易に決めようとするが、進路指導室の幽霊と話をし、周囲と衝突し葛藤する中で「自分の好きなこと、自分の良いところをまずは見つけていこう」という方向へ変化していくというストーリーである。進路に悩むといっても、決まっていり、実力が伴わなかったり、周囲に反対されたりする人のほうが多い傾向にある。しかし、一方では、将来のやりたいこ

とがまだない人も悩んでいるから、そういう人がいけばいいのかわや、みんなにそういう人もいるということに認識してほしいという思いがこのストーリーには込められている。遠藤さんは発表を振り返って「部員みんなが楽しんでいてよかった。本番前日にやりたい人だけいいと言ったのに、みんなが自主練してくれてみんなのやる気を感じることができて、とても感動した。地区大会では演技練習は本番の2週間前から開始したので、セリフを覚えるのがとても大変だった。でも、次の県大会で発表する時は、きちんとセリフも入っているもので、地区大会よりも良いものを作って、中国大会進出を目指してみんなで一致団結して頑張っていきたい。現在部員数が少ないので演劇に興味のある人はぜひ気軽に話してほしい」と笑顔で話した。

（葉）

文化祭公演講師

ジャーナリスト 田中輝美さんに決まる！

数日後に迫った今年の文化祭では、ローカルジャーナリストの田中輝美さんが講演をする。ローカルジャーナリストとは、田中さんが名付けた職業で、地域に暮らしながら、地域を記録・発信するジャーナリストのことだ。島根県浜田出身で、大学卒業後、山陰中央新報社で働いていた田中さんは、地域に暮らすからこそ伝えられ



田中輝美さんの似顔絵

ることがあるということに気づき、今はローカルジャーナリストとして島根に暮らしながら日々島根のことを発信している。また、鉄道の旅がJR全線に列車をするほど好きということ、著書に『ローカル鉄道という希望』という鉄道に関係する本や、『地域で働く「風の人」という新しい選択』などの地域にかかわる本がある。講演をするにあたって安高側に「この講演を通じて生徒たちにどうなってもらいたいですか」と問いかけた田中さん。その問いに安高側は「すぐそばにある外の世界に目を向けるきっかけになるような話をしてほしい。また、課題を見つけて、どうにか解決しようと奮闘する楽しさを知ってほしい」と答えたという。趣味・特技が「面白いことに首を突っ込む」という田中さんがどのような講演をするのが楽しみだ。（友）

【参考】田中輝美オフィシャルサイト

NHK のど自慢に 出る人はい ませんか？！



安来高校には歌を歌うことが上手な人、好きな人がたくさんいると思います。そこで、12月10日（日）に新しく安来市にできた市民会館、アールピアで催されるNHKの『のど自慢』に出場す

る予定の方がおられたら、新聞部の2年3組岩田まで声をかけてください。生徒はもちろんですが、先生方の中でも出場されるという方がおられましたら気軽に声をかけてください。

男子ソフトボール 選手権・新人戦 連覇!

9月16日、18日に松江商業高校で、島根県高ソフトボール選手権が行われた。男子は序盤は三刀屋高校にリードを許す形だったが、後半逆転し9対7で優勝した。また、10月24日(火)に出雲商業高校で行われた新人戦では三刀屋高校に13-6でコールド勝ちした。

選手権優勝後、キャプテンの上優貴さん(2年)は「最後まであきらめずに気持ちを保つことができ、勝つ時は、やっとならなう」と話した。このことについて

「2アウト後につなげるバッティングがピンチの時に声を出してとても良い雰囲気が出た」と話した。このことについて

「このたびの新人戦では強豪三刀屋高校に初戦から当たり敗れてしまっただが、9月16日、17日に行われた選手権では初戦、出雲高校に15対2で五回コールド勝ちをした。キャプテンの山本美奈華さん(2年)に選手権後に話を聞く

「公式戦では入学してから1回も勝つたことがなかったのですが、とても嬉しかった。みんなが大きな声を出してチームの雰囲気盛り上げられてよかったと思う」と笑顔で話した。

「後片付けができて、守備がうまいかなかった時のマイナスの発言がなくなったりして、人間的に成長できた試合だった」と話した。そして最後に「今は部員が少なく控える選手がいなくて、誰でもいいから入ってほしい」と新入部員を求めた。

「勝つた試合だった。バッティングにまだまだ課題があるから改善していきたい」と話した。

「今年インターハイで8位入賞をした井塚千晶さん(3年)は10月21日からポーランドで行われたジュニアワールドカップに参加した。国際大会の参加は初めてだった井塚さんは「現地の人と触れ合うことができ、今まで日本の人とは試合などをしたことがなかったのでとても勉強になった」と話した。



優勝してガッツポーズをする男子ソフトボール部員

「今後の目標を話した。監督の石飛先生は選手権について「最初はやられていたが、途中から落ち着きを取り戻して勝つことができた。みんな学習能力がすごく、徐々に自分たちで能力を伸ばしていった結果だ」と分析した。新人戦については「後片付けができて、守備がうまいかなかった時のマイナスの発言がなくなったりして、人間的に成長できた試合だった」と話した。そして最後に「今は部員が少なく控える選手がいなくて、誰でもいいから入ってほしい」と新入部員を求めた。

「このたびの新人戦では強豪三刀屋高校に初戦から当たり敗れてしまっただが、9月16日、17日に行われた選手権では初戦、出雲高校に15対2で五回コールド勝ちをした。キャプテンの山本美奈華さん(2年)に選手権後に話を聞く

「公式戦では入学してから1回も勝つたことがなかったのですが、とても嬉しかった。みんなが大きな声を出してチームの雰囲気盛り上げられてよかったと思う」と笑顔で話した。

「後片付けができて、守備がうまいかなかった時のマイナスの発言がなくなったりして、人間的に成長できた試合だった」と話した。そして最後に「今は部員が少なく控える選手がいなくて、誰でもいいから入ってほしい」と新入部員を求めた。

「今年インターハイで8位入賞をした井塚千晶さん(3年)は10月21日からポーランドで行われたジュニアワールドカップに参加した。国際大会の参加は初めてだった井塚さんは「現地の人と触れ合うことができ、今まで日本の人とは試合などをしたことがなかったのでとても勉強になった」と話した。

「勝つた試合だった。バッティングにまだまだ課題があるから改善していきたい」と話した。

女子ソフトボール 公式戦初勝利!

「このたびの新人戦では強豪三刀屋高校に初戦から当たり敗れてしまっただが、9月16日、17日に行われた選手権では初戦、出雲高校に15対2で五回コールド勝ちをした。キャプテンの山本美奈華さん(2年)に選手権後に話を聞く

「公式戦では入学してから1回も勝つたことがなかったのですが、とても嬉しかった。みんなが大きな声を出してチームの雰囲気盛り上げられてよかったと思う」と笑顔で話した。

「後片付けができて、守備がうまいかなかった時のマイナスの発言がなくなったりして、人間的に成長できた試合だった」と話した。そして最後に「今は部員が少なく控える選手がいなくて、誰でもいいから入ってほしい」と新入部員を求めた。

「今年インターハイで8位入賞をした井塚千晶さん(3年)は10月21日からポーランドで行われたジュニアワールドカップに参加した。国際大会の参加は初めてだった井塚さんは「現地の人と触れ合うことができ、今まで日本の人とは試合などをしたことがなかったのでとても勉強になった」と話した。

「勝つた試合だった。バッティングにまだまだ課題があるから改善していきたい」と話した。

女子硬式テニス 雨の中のB8

県新人大会 松江 9月16日、17日 細木遥(1年)6位

新人戦は雨が降っている中行われ、途中より試合の進行が不可能になり中止となった。中止になるまでの試合を細木遥さん(1年)が勝ち抜きベスト8に入ることができた。ベスト8に入れたことについて細木さんは「相手に点を取られないように相手のボールの動

きを理解して戦った。自分はジュニアから始めたからベスト8に入れないといけないと思っていた。中国大会では強い相手が増えるから自分に自信を持って戦う」と自分に厳しく語った。

「今年インターハイで8位入賞をした井塚千晶さん(3年)は10月21日からポーランドで行われたジュニアワールドカップに参加した。国際大会の参加は初めてだった井塚さんは「現地の人と触れ合うことができ、今まで日本の人とは試合などをしたことがなかったのでとても勉強になった」と話した。

「勝つた試合だった。バッティングにまだまだ課題があるから改善していきたい」と話した。

声出して高め合っ

県新人大会 松江 10月14日、15日 11月の中国大会へ進出

・女子団体
・個人 田中仁 小原未久 田中那海 渡部美羽 津森香乃 小山ゆい 岩崎聖奈

キャプテンの小原未久さん(2年)は「今回の試合ではあまり声

を出して高め合っ

た」と話した。

新しい風を吹かせる生徒会

9月12日に行われた立会演説会で、成田菜菜さん(2年)が生徒会長に立候補し、全校の前で演説をした。「ステージ上ではとても緊張してしまっただが、生徒会長の演説は生徒の心を掴み多数の信任を得て見事に当選した。生徒会長となった成田さんに取材したところ成田さんは「安高生が

充実した楽しい学校生活を送れるようにしたい。そのためには、文化祭をより楽しくするために新しいことに挑戦していくつもりだ。それと同時に自

分自身を大きく成長させていきたい」と、とてもやる気に満ち溢れた様子で語った。また「去年の文化祭では昼休みの時教室から出ない生徒が多かったため、少しの生徒しか文化部の展示を見ていない事があった。そのため、生徒会は今年の文化祭で教室から出て文化部の展示や活動を見る安高生が増えるようにする新しい企画を立てている」と語った。これからの生徒会長

の活躍に期待が高まる。



生徒会長の成田菜菜さん

(友)

(友)

(花)

(花)

おいしい

安高の食堂



学食を経営されている渡部さん

「おいしい」と熱く語りたい。食欲の秋である今、新たな味わいを求めて学食に行ってみてはどうだろうか。

(亜)

本校の学食は、現在の場所に安来高校が建設されたときから営業しており、長い歴史を持つ。しかしながら、だんだんと利用者が少なくなっているのが現状だ。それには、3年生の部活の引退が大きく関わっている。また、周囲の生徒に、なぜ学食を利用しないのか尋ねると、「行きたくても行きづらい」という声が多く聞かれた。利用者が減少していることについて、渡部さんは「時代の流れだと思っ

最後に、安高生へのメッセージを聞くと「このまま利用者が少なくなれば、学食がなくなってしまう可能性もある。学食は雰囲気も和やかだ。一度も来たことがない生徒がほとんどと思うが、ぜひ一度は食べに来てもらいたい」と熱く語った。食欲の秋である今、新たな味わいを求めて学食に行ってみてはどうだろうか。

食堂の危機！知られざる現状

実は、以前にも学食について本紙で取り上げてはいたが、利用者が減ってきていることに伴い、再び取り上げることになった。安高の食堂を経営している「割烹仕出し家納喜」のオーナー渡部恵二さんに学食について話を聞いた。

第2回オープンスクール 111名の中学生 安高を体験



部活動体験に参加する中学生

生徒から見た食堂とは？!

我々新聞部員は食堂の取材をするためにまずは昼休みに学食へ食べに行き、放課後対談を行った。

記者①…今日、中の海会館の食堂に行って食べてみてどうだった?

記者②…私はラーメンを食べました。スープは醤油味が乗っていました。味わいがしっかりとしていての満足する味で美味しかったです。

記者③…私はカレーうどんを食べました。カレーは手作りということで、じゃがいもやネギなどの野菜もたくさん入っていて辛すぎず美味しかったです。

記者④…そうなんだあ、私は卵うどんを食べただけど、ふんわり柔らか



従業員さんおすすめのうどん

くて味は濃すぎず上品な味で美味しかった

記者④…私が食べたのはピラフで、卵や細かく刻んだ野菜が入っていて美味しかったし、紅しょうがのアクセントも効いていた。食堂に来ていた生徒にインタビューをしたところ

高校生との交流に胸弾ませる

10月7日に第2回オープンスクールが開催された。8月に実施予定であった第1回が台風の影響で中止となったため、今年度初の開催となった。今回は学校説明会と部活動体験が行われ、111名の中学生が本校を訪れた。

部活動体験では、高校生に指導してもらいながら懸命に取り組む姿や、和気あいあいと楽しむ様子が見られた。美術部を体験した広瀬中学校の岡田

(亜)

編集後記

肌寒い季節になりこたつを出す季節ですね。先日ロードレースも終わり、もう少しで文化祭です。新聞部は今まで撮りためた写真の展示を行います。写真の中にはいろいろな写真があり、生徒と一緒に行事を楽しんで先生方も写りこんでいます。色々な写真があるので、先生や自分、友達の写真を探してみてください。また、今年の文化祭号外は即日発行する予定です。是非読んでください。

